

が多くみられた。

37. 肺癌に対する非治癒手術の検討

産業医科大学第2外科

村上 勝, 吉松 博, 石倉義弥
小田桐重遠, 川原英之
永田真人, 藤田博正, 徳永裕之
嶋津 明, 永松貴子

肺癌に対する Reduction Surgeryの意味を, 非治癒切除の行われた9例と, 非切除症例32例の平均生存期間の比較を行って検討した。2群の平均生存は8.1ヶ月, 8.4ヶ月であり, 現状では Reduction Surgeryの有効性は明かでない。

38. 血痰を主訴とした腎癌の気管支壁転移例に対する気管支形成術の経験

大分医科大学第2外科

藤富 豊, 葉玉哲生, 内田雄三
柴田興彦, 賀来清彦
一万田充俊, 高崎英己

森 義顕, 岡 敬二, 重光 修
村上一信, 藤島公典, 調 亟治

64才男性で原発性肺癌として, 術前精査中に腎癌がみつき, 気管支壁への転移性肺癌であった症例を報告した。

39. 肺癌に対する内視鏡的レーザー治療

九州がんセンター呼吸器科

田中康一, 石松豊洋, 宮崎一博
一ノ瀬幸人, 野下貞寿
原 信之, 大田満夫

肺門型進行肺癌による気道狭窄に対し, 9例にNd-YAGレーザー治療, 及び4例にヘマトポルフィリン誘導体(HpD)とアルゴン・ダイレーザーとを組み合わせた光照射療法を行い, その治療成績につき検討した。

40. 肺癌患者におけるSu-Ps皮内反応の検討

長崎大学第2内科

中島 学, 平谷一人

福島喜代康, 門田淳一

宮崎幸重, 朝長昭光, 小森清和
河野 茂, 神田哲郎, 植田保子
広田正毅, 齊藤 厚, 原 耕平

OK-432投与肺癌患者において, A群溶連菌より分離されたSu-Psによる皮内反応を行い, 20mm以上の上昇群が明らかに予後良好であった。このSu-Ps皮内反応は, OK-432治療効果判定のパラメーターとして有用と考える。

41. 肺癌免疫化学療法における皮内反応の推移

鹿児島大学第1外科

山王邦博, 藤原 章
下高原哲朗, 有村利光
富加見章, 竹之下満
柚木健一郎, 川井田孝
西満 正

比較的早期ないし切除可能な原発性肺癌に於て免疫賦活剤OK-432を使用した場合, Su-Ps反応が増強した。Stage IIIで反応増強と生存期間の延長との相関を検討したが無かった。

42. 肺癌患者におけるシスプラチンの治療効果

熊本市民病院呼吸器内科

岳中耐夫, 樋口定信, 志摩 清

原発性肺癌患者12例(腺癌6例, 扁平上皮癌6例)にシスプラチンを投与した。投与法は腺癌にはアドリアマイシン, サイクロフォスファミドと併用した。扁平上皮癌にはペプレオマイシン, 一部マイトマイシンと併用した。その結果, 腺癌で1例のM.R, 扁平上皮癌で3例のP.Rの効果認められた。

43. シスプラチンの使用経験

九州大学医放

島村 易, 神宮賢一, 上原 智
松浦啓一

同 医中放 増田康治

同 医短 吉本清一

九州大学医学部放射線科では,

肺癌に対し昭和58年1月より他の抗癌剤にシスプラチンの併用療法を行なっている。効果判定にはまだ期間を有すると思われるが, 有効例を経験したので症例を供覧し報告する。

印象記

本会九州地方会は原耕平会長(長崎大内科教授)のもとに6月18日九州癌学会とともに共催された。43題の一般講演と1つの特別講演が行なわれ盛會裡に実り多き学会を終了した。特に印象的だったのは, 癌学会との合同特別講演として行なわれたPaul I. Terasaki教授の「癌に対するモノクローナル抗体」の話であった。モノクローナル抗体による癌免疫療法の結果はまだ上っていないが, 1歩1歩困難を克服しながら努力している過程を聞いたことは, 若い癌研究者に大きな刺激を与えたものと思われた。聴衆が会場に溢れたのも, 会長のtimelyな企画によるもので感謝に堪えない。

肺癌検診の問題が出ているが, 診療の立場からみると検診発見例でもよく聞けば自覚症を結構多く持っていることが報告された。効率良き肺癌発見は, 第1線の医師, ことに開業医の努力に待つ所が大きいとの印象を強く持った。

肺癌の治療成績は徐々に向上しているが, そのうちI期肺癌治療成績の向上がめざましい。これには, RI scan, CT scanなどで, 昔ならI期と思われたもののうちからscanで除かれるものが増したことがかなり影響している。進展例での向上は, 多角的集学治療の賜であろう。九大放射線科では放治と化療で44